

# ティーチング・ポートフォリオ(教育業績ファイル)

教員氏名	尾崎 有飛
主な担当科目	これからのピアノ表現Ⅰ,これからのピアノ表現Ⅱ,演奏会実習
シラバス	<a href="#">ここをクリック(本学ポータルサイトトップページが表示されます。)</a> ※画面下「シラバス」>「シラバスを検索するにはこちらをクリックしてください。」をクリック
2023年の教育目標・授業に臨む姿勢	授業に参加する目的や、何を学び経験する場なのかを学生が意識できるよう、各授業の方向性や目標をわかりやすくする。また実技レッスンでは、姿勢と表現や音質のつながりを意識することで、求める表現に結びつく自然な体の使い方が修得できるよう、継続的に取り組む。
2023年の教育に関する自己評価	授業の目的の一貫性と、学生の積極的な姿勢や個々の特性、それぞれの目標や課題に合わせた運用面での柔軟性の両立につとめた。また、大学生活を通して何を学びたいかという学生の意思を汲みつつ、今後の学修の礎となる基礎を重視した授業展開を行った。レッスンでは姿勢や呼吸の改善と表現の柔軟性の結びつきを中心として、それぞれの練習の質の向上を目指した。
2023年のFD活動に関する自己評価	全体FD研修では、今後数年を見通した大学のビジョンや、昨今一般的に取り上げられている問題など多くの情報を吸収できる場として参加し、得られた知見を普段の業務や生活でも意識するよう心がけた。
授業改善のために取り入れた研修内容	特に多様な背景をもつ学生に対し、個々に合ったサポートを心掛けた。また高校から大学、そして大学院へという学びの流れについて、学生達と対話する中で短期的な目標とともに中長期の目標をもち、日々の学びを通して将来像を考えることの大切さを意識づけた。

## 2023 年度(後期)「学生による授業アンケート」結果に対する授業改善計画書

教員コード:2802 教員名:尾崎 有飛

### 1)アンケート結果に対する所見

「これからのピアノ表現」の授業では、一つの科目内で初見演奏やアンサンブル、アナリーゼ、プレゼンテーションなど様々なことに次々と取り組み、それを読譜や技術面の解決、演奏表現へリンクさせてゆくことを目標としている。そのため、授業の流れの中で学生個々の得意不得意が発生し、より詳細な説明や丁寧なコミュニケーションが必要になることもあると考えられる。また、自身の予習・復習が充分でないと回答する学生が毎年みられる。ただ、この科目の授業内容は主科実技の学修とも結びついているため、実際には主科レッスンで演奏している楽曲のアナリーゼや演奏表現の勉強が、間接的にこの授業の予習や復習にもなっているという認識が薄く、このような回答結果になっている可能性も考えられる。

### 2)要望への対応・改善方策

「これからのピアノ表現」は 2025 年度より 3 セメスター分の授業として刷新される。初見演奏や鑑賞、ディスカッションを通じてより多くの楽曲に触れつつ、学生個々の特徴に極力寄り添う柔軟な授業展開を目指したコミュニケーションも心がけてゆく。また同時に、既に学んだ事柄を他の楽曲の解釈や演奏へ応用することなど、様々な事柄をリンクして考察を深めることへの興味を養う。ディスカッションだけでなくグループワークなどもさらに実施し、学生同士の様々な視点を相互に与えられるようにする。そして更に他科目に対する興味へと広がり、日々必要性を感じて予習や復習を行い、授業に臨むことが出来るように発展させる。

### 3)今後の課題

ピアノ演奏家 I コース必修の「演奏会実習」では、演奏会のチラシ作成や配付プログラム、タイムスケジュールの作成等タブレット端末等を活用する内容も含まれている。今後 ICT の活用範囲の拡充や、履修者全員のスキル向上を目標として、授業展開を工夫する。また楽曲解説執筆のための調査研究を行い、演奏だけでなく文字で簡潔に伝えることにも取り組んでいるが、今後の目標としてはレクチャーコンサートのような口頭でのプレゼンテーション能力向上も授業内容に取り入れ、演奏家として必要なスキルを幅広く経験できるよう発展させたい。

以上